

追悼の辞

熊本県立大学総合管理学部憲法担当の苗村辰弥准教授は、2008年8月7日、生まれ故郷の名古屋の地で、約2年にわたる闘病生活の末に他界されました。まだ44歳という若さで、研究者として嘱望されていただけに、残念でなりません。また私人としては立派な家庭を築かれており、ご家族を残しての早い旅立ちに、ご本人の無念さは察するにあまりあります。

1996年4月、当時まだ30歳の若さの苗村先生は、熊本女子大が男女共学の熊本県立大学に改組し、社会科学系の総合管理学部が新たに発足するに際し、新進気鋭の憲法学の教員として本学部へ赴任されました。苗村先生の恩師であった手島孝先生（熊本県立大学名誉教授）が改組後の初代の学部長や学長にもなられた経緯も加わり、苗村先生は草創期の総合管理学部の中で、学部運営の面で陰ながらご尽力なさいました。たとえば、学部発足当時はまだ何も規則が定まっておらず、なにか新しい事態が生じるたびに制度を設計しなければならぬ状況でした。苗村先生は、具体的には新しく設立した総合管理学会やアドミニストレーション研究科博士前・後期課程に関する複雑な規則の検討及び制定に中心的な役割を担われ、これらの仕事を迅速に処理されました。会議の席上、良く通る大きな声で熱弁をふるっていた苗村先生の姿が、昨日のこのように思い出されます。

ところで、お亡くなりになる1年前、体調がかなり回復されたようで、2ヶ月間くらい職場復帰されていましたが、その時は職場での雑談の場にもしばしば顔を出され、大きな声をあげて笑っておいででした。それだけに、昨年8月の突然の訃報に接し、驚きを禁じ得ませんでした。

苗村先生の総合管理学部へのこのような貢献に対し、ささやかではありますが、先生の御霊前に本追悼論文集を捧げ、私たちの感謝の気持ちを表したいと思っております。総合管理学部の教員一同、先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

2009年1月

総合管理学部長 松 岡 泰